

# 図画工作・美術分科会

## I 研究のあゆみ

4月19日(金)	2024年度名教組教研オリエンテーション (2024年度名教組教育研究活動の進め方)	【教育館】
5月2日(木)	発表テーマ報告・集約	
5月下旬～6月下旬	研究計画の検討 全体での会は開かなかったものの、個別に指導	
7月16日(火)	研究内容の検討(第2次実践の検討と研究のまとめ方)	【桜山中】
9月6日(金)	レポートの検討	【桜山中】
	市集会発表内容の検討(リハーサル)	【桜山中】
9月21日(土)	第74回名古屋市小中特別支援学校教職員教育研究大会	【ウインクあいち】

## II 研究協議の概略

図画工作・美術分科会では「探究し、追求し続ける造形活動」をテーマに実践・検討を進めてきた。子どもたちが試行錯誤し、納得のいく表現を見付けることができるように、題材を考えたり、手立てを工夫したりして、「自ら考え、表現すること」「粘り強く表現を追求すること」「仲間とのつながりや対話を通して鑑賞すること」「生活や社会に目を向け、その中で造形的な視点をもつこと」を大切にした教育実践が報告された。表現活動に夢中になっている子どもたちの姿とともに、思いのこもった作品が報告された。また、「ナゴヤ学びのコンパス」で重視したい学びの姿を意識した実践が多く報告された。

「ナゴヤ学びのコンパス」で重視したい学びの姿・実践例

「自分に合ったペースや方法で学ぶ」

- ・ 二次元コードを活用し、タブレットを使って表現技法をいつでも確認できる実践
- ・ 2題材を同時に進め、自らの製作計画に基づいて学びを調整できる実践

「多様な人と学び合う」

- ・ 仲間との対話から新たな発想を広げ、自らの表現に生かすことができる実践
- ・ ゆるやかな協働性の中で互いを認め合い、自信をもって表現を追求できる実践

「夢中で探究する」

- ・ 導入時に題材や材料のおもしろさを体感することで、夢中で探究できる実践
- ・ 思考ツールの活用とアイデアの共有で、自分の表現を追求できる実践

## III 今後に残された課題

- 「ナゴヤ学びのコンパス」で重視したい学びの姿については、図画工作・美術の教科の特性を十分に考慮して、子どもに価値付けして示していく必要がある。実技教科であることを踏まえ、教員は各題材で扱う材料や用具の「知識・技能」を子どもに授ける機会を適切に設け、その上で子どもが自らのペースで学び、「思考・判断・表現」できるようにしたい。
- 意見交流の中では、自分のペースや方法で学ぶと、評価や活動時間の限りについて不安であるとの声が上がった。目標に沿っためあてを毎時間子どもに意識させることや、教員が学びの伴走者として、しっかりと子どもの学びを見取る必要がある。また限られた時間の中で、どのような方法で学ばよいか、もう一步踏み込んだところで子どもが見通しをもち、自らの学びを調整することが必要になるのではないか。今後さらに実践が重ねられることによってその点が整理されていくことが期待できる。